

令和4年度事業報告書

宝塔保育園

1. 保育園の運営

(1) 定員 45名

(2) 年齢別、初月別入所児童数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|
| 0歳児 | 4 | 5 | 5 | 5 | 6 | 8 | 8 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| 1歳児 | 17 | 17 | 17 | 19 | 19 | 19 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | 20 | |
| 2歳児 | 19 | 20 | 19 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | |
| 計 | 42 | 42 | 41 | 42 | 43 | 45 | 46 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | |

(3) 職員数 令和4年度初 24名 年度末 26名

(4) 職員の移動等

①採用 3名

②移動 0名

③退職 3名

(5) 会議の開催状況

- ・職員会議 毎月1回実施。保育に支障のない範囲で職員が参加し、行事、各事業、日々の保育の様子について気になる点を話し合った。また、外部研修会参加職員の報告を行い、それを基に園内研修会で話し合い保育の向上に反映。
- ・保育会議 毎月1回実施。各クラスの様子や個人的な対応の共有、今後の課題について検討した。
- ・給食会議 毎月1回実施。給食内容の検討、行事の打ち合わせ、献立の反省をした。

2. 保育の実施状況

(1) 保育目標（方針）

こころも からだも すこやかに

(2) 保育時間（月～金）午前7時45分～午後6時45分

延長保育時間：午前7時45分～午前8時00分

午後4時00分～午後6時45分

（土）午前7時45分～午後4時

延長保育時間：午前7時45分～8時00分

(3) 保育内容

○保育所保育指針に基づいた指導計画を作成し、計画的に保育を行うことで子どもの情緒が安定するよ
うな保育を心がけた。

3. 給食の実施内容

○加工食品は極力使用せず、季節の食材を取り入れた献立を実施した。

○アレルギー体質の子どもには「アレルギー食品チェック表」「アレルギー調査票」を保護者より、
「除去食指示書」をかかりつけ医より提出してもらい、家庭と連絡を取り合いながら、除去食で対応した。

(1) 乳児

家庭で飲んでいるミルクを園でも使用した。離乳食の場合、初めての食材は家庭で口にしたものを

取り入れた。その子の月齢や離乳食の進みぐあいを考慮し、喫食状況を連絡帳や口頭で知らせ家庭と園で連携を取りながらスムーズに離乳食が進むようにした。

(2) 1～2歳児

完全給食に加え、10時と15時のおやつを実施。

4. 健康管理の実施状況

(1) 園児

①小児科 年2回(9月・2月)嘱託医による健康診断を実施。

②歯科 6月に嘱託歯科医による検診を実施。

結果票を保護者へ配付し、フッ素そう布等で受診してもらうよう話した。

(3) 職員

① 定期健康診断 年2回(11月・2月)総社町深沢医院にて全職員に健康診断を実施。

② 検便 月1回、専門業者に依頼し「赤痢菌、サルモネラ菌、O-157」の検査を副園長、主任保育士、調理担当者4名、0歳児担当者5名、計11名に実施。また、「ノロウイルス」の検査を調理担当者4名に実施。

毎回異常なし。

5. 安全対策の実施状況

(1) 地震、火災、災害、消火訓練

月1回、いろいろな場所からの火災、地震、災害等を想定し避難訓練を行った。

11月11日、前橋西消防署の立会いの下、火災時の避難誘導、通報、消火訓練を行い指導を受けた。

(2) 防犯訓練

6月30日、1月13日に、不審者出現を想定した防犯訓練を行った。ドアの施錠、防犯ベルの使用等を行い不審者の動きに合わせて対応を行った。

令和4年度 事業報告書

総社保育園

1. 保育園の運営

(1) 定員 80名

(2) 年齢別、月別入所児童

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 1歳児 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 33 |
| 2歳児 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 36 |
| 3歳児 | 27 | 27 | 27 | 27 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 332 |
| 4歳児 | 27 | 27 | 27 | 27 | 28 | 27 | 27 | 27 | 27 | 27 | 27 | 27 | 325 |
| 5歳児 | 27 | 27 | 27 | 27 | 27 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 | 331 |
| 計 | 86 | 86 | 86 | 87 | 89 | 89 | 89 | 89 | 89 | 89 | 89 | 89 | 1031 |

(3) 職員数 令和4年度初 24名 年度末 23名

(4) 職員の異動等

①採用 年度初4名 途中3名(看護師1名、産育休代替非常勤職員の再雇用)

②異動 年度初0名

③退職 年度末2名 途中2名(産育休代替非常勤任期満了のため、転職のため退職)

(5) 職員会議の開催状況

職員会議は、毎月1回開催。保育に支障が無い範囲で参加し、行事・事業、日々の保育の様子について気になる点を話し合った。また、外部研修会参加職員の復命を行い、それを元に園内研修会で話し合い、保育の質の向上に役立てた。

給食会議は、毎月1回実施。アレルギー児の確認と対応の共通理解を進めた。献立と行事に関連するメニュー等について打ち合わせるとともに、献立の反省を行い改善に努めた。監査時の指摘により、職員会議の中で行うので無く、職員会議後に「給食会議」として開催するようにして、内容や記録の充実を図った。

2. 保育の実施状況

(1) 保育目標

「やさしく かしこく 健やかに」

(園児の姿) ○ 思いやりのある子 ○ なぜに気づき考える子

○ のびのび元気いっぱいの子

(2) 保育時間 午前7時45分～午後6時45分

延長時間：午前7時45分～午前8時00分

午後4時00分～午後6時45分

(3) 保育内容

保育指針に基づく月別指導計画を作成した。日々の保育内容を充実させるための週案・日案を整理し、計画的で質の高い保育の提供が行われるように心がけた。行事中心の保育にならないよう、職員会議でも周知し、子どもの主体性を重視したのびのびした保育を行うよう心がけた。コロナ禍ではあったが保育参観や運動会、生活発表会を通して、保護者にも園での様子を見ていただき、共に成長を感じられる機会を持った。

3. 給食の実施内容

・園独自の献立を立て、栄養価のバランスの取れた食事とおやつ提供に努めた。

・食物アレルギーの体質を持つ子どもには「アレルギー食品チェック表」「アレルギー調査表」を保護者から、除去食指示書をかかりつけ医より提出してもらい、家庭と連絡を取りながら、除去食で対応した。

4. 健康管理の実施状況

(1) 園児

- ①小児科の健診 年2回（10月、2月）嘱託医による定期健康診断を実施した。特段の注意が必要な園児はいなかった。
- ②歯科医の健診 6月に嘱託歯科医による歯科検診を実施した。
※ 結果表を保護者に配布し、必要な子どもは受診するよう勧めた。
- ③年度当初に尿検査を行い、結果を保護者に伝えた。本年度は、全員異常なしであった。
- ④お口元気教室の実施。市保健センター職員による歯磨き指導をクラスごとに実施した。
- ⑤4歳児に看護師による視力検査を実施。気になる子には個別に保護者に伝えた。

(2) 職員

- ①定期健康診断 10・11月、全職員が群馬中央病院で法定の定期健診を実施した。
- ②検便 月1回、専門業者に依頼し、赤痢菌・サルモネラ菌・o-157の検査を、副園長と調理担当3名が実施。毎回、異常なし。

5. 安全対策の実施状況

- ・月1回の火災や地震を想定した避難訓練を実施し、その訓練状況について整理し記した。
- ・この内1回、避難訓練の様子を西消防署の職員に観ていただき、指導を受けた。
- ・突発的な内容を盛り込むことで（けが人がいる等）「こんな時はどうすればいいか」を考え、訓練に臨むことができた。
- ・月1回の防犯・災害への対応を想定した訓練を実施した。
- ・この内の1回、市危機管理課から指導員を招いて不審者対応の現地訓練を行っていただいた。
- ・リスクマネジメント研修（園長・副園長参加）でのアドバイスにより、初めて保護者協力の下、引き渡し訓練を行った。実際に引き渡しカードを使い、職員の意見をまとめ、引き渡しカードの改良を行った。令和5年度には予め引き渡し訓練を計画に盛り込むことにした。
- ・宝塔保育園の職員と共に、西消防署の職員による救急救命（応急手当）講習を、7月に受講した。

6. 保育士の資質向上の取組

- ・研修に自ら望んで積極的に参加することで、保育士としての意識を高く持つことができた。新任保育士も意欲的に参加し、資質向上に努めていた。
- ・前年度の保幼小研修会で事例発表したことを、今年度の保育内容に活かし、意識的に子ども主体の保育が展開されるようになった。子どもの様子をしっかりと見て子どもたちにどんな環境構成が必要かを考えて保育に臨んでいた。